

令和3年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」
事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 茨城県 】

学校名【 土浦市立乙戸小学校 】

1 実践テーマ	Ⅲ・Ⅴ
2 実施対象者 (学年・人数)	3～6学年 210名 (3学年 55名、4学年 57名、5学年 47名、6学年 51名)
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 (総合的な学習の時間、国語) ② 行事名 (オリンピアンのお話を聞く会) ③ その他 () (2) 地域における活動 ① イベント名 () ② その他 ()
4 目標 (ねらい)	○オリンピック・パラリンピック・ムーブメントの普及・推進を図るとともに、児童が生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てる。 ○パラリンピック種目の体験を通して、共生社会について考え、自分たちができることを実践しようとする意識を高める。
5 取組内容	(1) 国際パラリンピック委員会公認教材「I'm POSSIBLE」を活用した事前学習 (3学年) ○パラリンピックってなんだろう？ 「I'm POSSIBLE」を活用して、パラリンピックで使われる道具やスリー・アギトスの意味などについて学んだ。スライドやクイズを通して、児童のパラリンピックへの関心を高められるようにした。  (2) オリンピック・パラリンピックコーナーの設置 図書室前の廊下に「オリンピック・パラリンピックコーナー」を設置し、オリパラ関連の新聞記事やグッズ、書籍を掲示した。児童がいつでも手に取れる環境を作ることによって、児童のオリンピック・パラリン

ピックへの興味をより深められるようにした。



(3) オリンピアンのお話を聞く会 (3~6学年)

ロンドンオリンピックの銀メダリストで、東京オリンピックにおいては解説として活躍された平岡拓晃氏を学校に招き、自身の経験をもとに失敗することはダメなことではないという話をしていただいた。また、東京オリンピックでの解説席からの写真を見せてもらったり、児童の質問に答えてもらったりした。講演会の終了後、振り返りカードに印象に残ったことや今後の生活に生かしたいことをまとめた。

- ① 実施日 令和3年10月28日(木) 13:50~15:00
- ② 講師 ロンドンオリンピック 男子柔道60kg級 銀メダル 平岡 拓晃氏
- ③ 内容 講演「失敗=DAMEじゃない」



オリンピックのお話を聞く会 ふりかえりカード

1 今日の話を聞いて、どんなことが印象に残りましたか。

「失敗=DAMEじゃない」がとても印象に残りました。なぜなら私は失敗するとすぐに「ダメだ」と思ってしまうので、失敗=DAMEじゃないという言葉を書いた時、「失敗はダメ、思わなくてもいいんだ」と思ったからです。

2 これからの自分の生活に生かしていきたいと思うことはどんなことですか。

平岡先生が言っていたように私は「ノート」を書く事に決めました。大切な事はいいからその日あった出来事をノートにまとめ、あとで読みかえして自分がかんがえた事、努力が活かされた事をしていきたいです。



- 友達と協力して活動に取り組みましたか。 (A) B C D
- よいと思うことを考えて、進んで取り組みましたか。 (A) B C D
- おめてに向かって、積極的に取り組みましたか。 (A) B C D
- 今日の活動を今後の生活にどう生かすか考えましたか。 (A) B C D

(4) 国語の授業におけるパラリンピックについてのスライドづくり

【3学年 パラリンピックについて調べよう

「パラリンピックが目指すもの」東京書籍

各自でテーマを決めて、調べ学習の後、スライドにまとめた。まとめたスライドの発表会を行うことで、パラリンピックについて各自で調べたことを共有し合い、学びを深めることができるようにした。



ブラインドサッカーのルール

- ・5人制サッカーで、フィールドプレーヤーはアイマスクを着用、首のなるボールでプレーする。
- ・ボールを奪いに行くときは必ず「ホイ」を言う
- ・選手に指示を出すのは、ガイド・監督・キーパーの3人だけで、それぞれの位置の選手には指示が出せません
- ・両サイドには壁の板がある
よですが、
板にぶつかる事で失格になります(こぼれ球)



(5) ボッチャ体験教室（3学年）

茨城県ボッチャ協会のスタッフを招き、ボッチャ体験教室を開催した。児童は、事前に調べ学習を行ってから教室に参加した。講師の方から、ボッチャは誰にでもできる競技であるという話やルールの説明を聞いた後、グループに分かれてボッチャ体験を楽しんだ。

- ① 実施日 令和3年11月26日（金）10：40～12：15
- ② 講師 茨城県ボッチャ協会
- ③ 内容 ボッチャについての話
ボッチャのルールの説明
ボッチャ体験



6 主な成果

○「I'm POSSIBLE」を活用した事前学習

- ・国際パラリンピック委員会公認教材「I'm POSSIBLE」を活用したことで、パラリンピックについて視覚教材を通して学ぶことができた。また、教材の中にはクイズもあり、児童の興味をかき立てることに繋がった。
- ・「I'm POSSIBLE」というパッケージ化された教材を用いたことで、授業準備の時間を短くできただけでなく、質の高い授業を展開することができた。

○オリンピックの話を聞く会

- ・オリンピックという大舞台で活躍した平岡氏の経験をふまえた話を、児童一人一人が真剣に聞く姿が見られた。質疑応答の時間には、児童から多くの質問が出され、児童の関心の高さがうかがえた。
- ・児童の振り返りには、印象に残った言葉や今後の生活に生かしていきたいことなどが書かれ、多くの児童が平岡氏の経験を自分と重ねて考えていた。

<児童の振り返りより>

- ・「失敗＝ダメじゃない」という言葉を聞いたとき、失敗はダメって思わなくてもいいんだと思った。
- ・できごとをノートにまとめ、あとで読み返して、自分がかんばったことや努力したことを糧にして生きていきたい。
- ・「失敗＝ダメじゃない」という言葉が心に響いたので、テストで悪い点を取っても、ちゃんとやり直しをしたいと思います。

	<ul style="list-style-type: none"> ・どうやったら成功するかを考えて行動することは、ものすごく大事ななと思った。 ○ボッチャ体験教室 ・3学年児童は、総合的な学習の時間に「福祉」をテーマとして学習をしている。ボッチャ体験教室を開いたことにより、本やインターネットで調べたり、テレビで見たりするだけでなく、体験活動を通して学ぶことができた。児童は、実際に体験することで競技やルールについての理解をより深めることができた。また、誰もができるボッチャというスポーツを通して共生社会について考えるきっかけとなった。
7 実践において工夫した点 (事業の特色)	<ul style="list-style-type: none"> ○オリンピック・パラリンピックコーナーを図書室前の廊下に設置し、オリンピック・パラリンピック・ムーブメントの高まりを児童が感じられるようにした。また、掲示物にSDGsのアイコンを付けることで、学校として取り組んでいるSDGsの視点を用いた教育とも関連付けた。 ○ボッチャセットを購入したり、体育館にボッチャコートを引きいたりすることで、体験教室を行った3学年だけでなく、全学年の児童が体育の授業等でボッチャに触れられるようにした。 ○オリンピック・パラリンピック派遣プロジェクトを活用して講師を招聘したことで、児童が実際に顔を合わせて話を聞く機会や直接質問する機会を設けることができた。 ○「オリンピックの話聞く会」の前に、講演会の講師である平岡氏についての紹介スライドを昇降口のモニターに流し、児童の興味・関心が高まるように工夫した。
8 主な課題等	<ul style="list-style-type: none"> ○オリンピック・パラリンピックについて学んだことや調べたことをまとめたものを他学年の児童に伝える機会を設けられなかった。 ○全学年で「I'm POSSIBLE」の計画的な活用を図り、オリンピック・パラリンピック教育のさらなる充実を目指したい。 ○コロナ禍での休校の影響もあり、オリンピックが盛り上がっていた9月に、オリンピックについての学習ができなかった。
9 来年度以降の実施予定	<ul style="list-style-type: none"> ○オリンピック・パラリンピック教育を総合的な学習の時間だけでなく、他の教科の学習と関連付けて教科横断的に行うことで、より深い理解につなげていきたい。 ○ボッチャを全学年で行い、パラスポーツへの関心を高めていきたい。